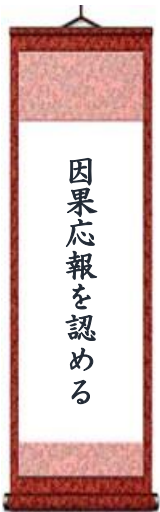


『業って何だろう』



いってんしかいかいきみょうほう
一天四海皆帰妙法



こんじょう
今生に生命を以て誕生する理論を、小乗仏教の「五生（五つの生誕論）」
で明かされています。

① 理生 りしょう
理屈無しに自然の法則のままに生まれて来る草木等、
宇宙の摂理せつりのままに生まれて死に、生まれて死にし
て循環せうわんしている。

② 業生 ごうしょう
私達人間の事、今生にやった行いおこなによって来生らいせいが
決まっていく。

③ 願生 がんしょう
誓願せいがんで生まれて来る。（誓願生とも云う）

○ 私は来生は、こう云うふうにしたたい、この様になりたと云う願望を以て生まれて来る。

今生自分は不幸で惨め、そして貧しく生まれて来た。来生は裕福に生まれたいと云う願いを起こす。

(その為に何をしたら良いか、それは功德を積みなさい、人の為に尽くしなさい。それが「因果応報」で、必ず報いとなって自分に返って来る。)

④ 通生 神通力に依って生まれる。

⑤ 応生 佛の助けをする菩薩として生まれて来る。

(佛様は、いつでも無縁の慈悲で、全ての人を助けて上げたい、救って上げたいと云う想いが究極的な段階に入った時に一番高等な菩薩として生まれて来る。(日蓮聖人・天台・伝教大師等)

○ 五生の中で私達人間が生まれて来れるのは、業生と願生であるが、願生は殆ど有りません。私達人間は、「業感縁起」に依って生まれて来る為。



◎ 業とは、日々やっている身・口・意での行いの事を云います。

先ず意(心)に思い、口から言葉を発し、身(身体)が行動を起こす。自分のやった経験(行動)は、五感(眼・耳・鼻・舌・身)から入り、六識、七識を経て八識と云う深意識(心の心田)に蓄積されていきます。

幼少期から経験した事、其の中で楽しかった事・苦しかった事等、

心の奥底おくそこのフィルムに写り業ごうの映像えいざうとして記憶きおくの中に残のこっています。これが「業力ごうりき」と云う力となり自分自身の将来を決めていく事になります。

人間の心の中を分析ぶんせきすると十の心を持っています。

(畜生ちくじやう(おろか)・餓鬼がき(むさぼる)・地獄じごく(いかる))が三悪道と云って最も悪い心でこれが悪い臭いの根源こんげんとなっています。

何事も自分がしたいと思う心いん(因)が在り、外からの誘う因ゆういん「誘因」、させ様とする縁ゆうえん「誘縁」により人間は様々な経験きんげんをしています。此れを「習因しゅういん」と云い「習慣しゅうかん」としてやって来た事が、知らず知らずの間に身体に染み付きし「習果しゅうか」を得させていきます。

(先日、八十三歳の「すり」の老婆らうばが逮捕とらされた時の映像えいざうが写うつっていました、「すり」歴六十年だそうです。家族も在り、自宅も在りで普通に暮くらしているとの事でしたが、何度掴つかまっば自然に手が動うごいてしまうそうです。若い頃しゅうかんより習慣しゅうかんとしてやってきた事は、どんな悪い事でも、身体が反応はんのうしてしまいます。)この様に因いんと縁えんにより流ながされていく事を「業ごう」と云います。

そしてその因縁いんねんが自分の中で終わらないで外へと向むかかっていく、これを「次第縁しだいえん」と云います。縁えんが縁えんを呼よんで自分の同志どうしとか友達を増まやしていきグループ化かしていく、これを縁縁えんえんと云う。これにより自分自身の身の安全を保たもとうとし、大きな輪わになっていく。

今生こんじやうで死んで終りだと云うのなら、又、どんな悪い事しても

報むくいがないなら悪い事をした者が勝かちです。今生にやった事が困むくどすれば必ず、その報むくいが来るのだと云うのが仏教の「因果説いんがせつ」です。



『始しもん聞ぶつじょうぎ佛ぶつじょうぎ乘じょうぎ義ぎ』に云く。(日蓮聖人御遺文)

火よ従いり水は出いでず石よ従いり草は生あげず、悪あくいんあつか因いん悪あつか果あつかを感じぜんいんぜんほう善ぜん因いん善ぜん報ほうを生なずるは仏教の定さだまれる習ない也。

現代解釈

火しょうから水はでない。石あくいんから草は生あつかじない、悪あつか因いんは悪あつか果あつかを感じ、善ぜんいん因いんは善ぜん報ほうを生さだずるのは仏教の定さだまった習ごうりきいである。

「そしてその因果の元になるのが業ごうりき力りきなのです。たとえば食物たべものの好すき嫌きらいや、病ぜんせい気せい等せいも前ぜんせい世せいの経きん験げんや生活くわつにより決けつまってしまうのです」

◎ 前世の業ごうごうが自分ぶくごうにとってどの様きようごうに出て来るかと申ましますと、

「共ぶくごう業ごう」と「不ぶくごう共ごう業ごう」になります。

共ぶくごう業ごう (自分きようごうの住すんでいる境きようごう遇ごう)

- ① 共ぶくごう業ごう (共ともにする業ごう) 環かんきよう境きよう・・・事じしやう証じやうとして大おほきなもの天てん地ち山さん川がわ、水みづ、自然ぜんぜん、環かんきよう境きようの破は壊かい、二に酸さん化か炭たん素そによる温おん暖なん化か現げん象じやう、オおゾぞんンん層じやうの破は壊かい、酸さん性せい雨う等とう々々

- ② 不ぶくごう共ごう業ごう (個こ人じん的てきなもの)

自じ分ぶんの家か、田でん畑へつ、着ちている服ふく、住すんでいる土ど地ち

不共業（個人的なもの）

① 共業 個人的に肉体的な特長

（身体が強靱である、体力が有る、病弱である。）

他の人と比べてどの様な身体を持っているか、人と違った

肉体的ハンディを鍛える事により力を養っていく



② 不共業 自分の内面的に持って生まれたもの（知的能力）

賢い、鈍い

◎ この業と云うものを考える時に、とかくすると自分とはかけ離れた

関係のないものと思ってしまうがちですが、環境破壊、温暖化現象

等、全てが「自分の」業だと云う事になります。つまり、今の時代

を作っているのは誰でもなく自分自身なんだよと考えなさいと云

うのが仏教の業の考えなのです。

この五百塵点久遠と云う、

はるか昔より生まれ変わり死に変わりして

来た命の中で良い匂いや悪い匂いが八識に薰習してありますが、例え悪

い臭いに於いてであつても、それを浄めていってしまう、一水の清い匂

い、その良い匂いはなかなか消えない、そう云うのが「法華経と云う

お経」だと思えます。

法華経までの諸経である華嚴・阿含・真言宗等は、理論や理屈を説いた

ものであり、

今生きている私達がこの中で、何をどう実践していけば良いかを、

経文に基づいて説かれているのが唯一法華経と云うお経であります。

それにより正しいものが何かを明かされています。
功德を積む事（陰徳有れば陽報あり）
功德とは、法華経を弘むるにあり。



『聖愚問答鈔』に云く。（日蓮聖人御遺文）

意は此の妙法蓮華経を信仰し奉る一行に功德として来らざる事なく善根として動かざる事なし、譬ば網の目無量なれども一つの大綱を引くに、動かざる目もなく衣の糸筋巨多なれども一角を取るに、糸筋として来らざることなきが如しと云う義なり。



現代解釈

この妙法蓮華経を信仰し奉る一つの行にかなる功德も集まつてこないものはなく、いかなる善根も動かないものはない。譬えば、網の目は無量であっても一つの大綱を引けば動かない目はなく、衣の糸筋は多くあっても一角を引けば、糸筋としてたぐられてこないものはないと云う事である。

毎月第3日曜日に、法華経の法話会を行っています。

聴聞は、どなたでも参加出来ます。是非お越し下さい。

大阪府八尾市服部川9333 安國寺 (072)941-8201

<http://www.eonet.ne.jp/~renshou-douju/>

ハワースポット「一塔合安 妙宗靈廟」で検索お願い
(本化妙宗 安國寺 知恩報恩推進委員会)